

令和8年度 笠岡市立市民病院経営強化プラン評価委員会の開催結果について

1 日 時 令和8年8月6日(木) 18:30～20:00

2 場 所 笠岡市立市民病院 2階 大会議室

3 出席者 委員 8名中7名出席（事務局 6名中6名出席）

※名簿は別紙「笠岡市立市民病院経営強化プラン評価委員会委員名簿」のとおり

4 議事概要

事務局説明

令和8年2月改定の「笠岡市立市民病院経営強化プラン」の令和7年度分の実施状況及び自己評価説明

5 協議内容（評価項目）

- (1) 役割・機能の最適化と連携の強化
- (2) 医師・看護師等の確保と働き方改革
- (3) 経営形態の見直し
- (4) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組
- (5) 施設・設備の最適化
- (6) 経営の効率化等

6 委員からの主な意見

(1) 役割・機能の最適化と連携の強化について

- ① 離島診療所への電子カルテ導入により、DXの推進による医師の負担軽減や適切な医療提供への貢献に期待したい。
- ② 地域包括ケア病床の稼働率が前年度から大きく低下していることについて、その要因と今後の対応を確認した。
- ③ 医師確保が困難な背景として、新臨床研修制度の導入以降、若手医師が都市部・基幹病院に集中する傾向があり、地域医療を担う医師の確保が構造的に難しい状況にある。岡山大学の地域枠制度の活用や、地域医療に関心を持つ医師の育成・派遣に引き続き期待したい。
- ④ 災害時に市民病院が十分な役割を果たせるのか不安があり、必要な機能を整え、市民が安心できる病院として維持してほしいとの意見があった。
- ⑤ オンライン診療について、高齢者も含め患者が円滑に利用できる体制となっているか確認があった。

(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革

- ① 民間紹介会社を通じた医師確保の実態や、看護師等の医療従事者の採用状況について確認した。

(5) 施設・設備の最適化について

- ① マイナンバーカードへの対応について、利用が進んでいることを評価する意見があった。
- ② RPA（ロボティックプロセスオートメーション）の活用による業務効率化の効果について、削減時間数など数値による見える化を行い、導入効果を明確に示すことが望ましい。

(6) 経営の効率化等

- ① 令和7年度の決算は赤字に転じており、医業収益が減少する中、人件費の上昇も見込まれることから、経営改善への継続的な取り組みが求められる。
- ② 今回の評価結果を踏まえ、経営に関する項目でCやDに下がっているものについて、来年度に向けた改善を期待する。また、新病院建設計画の方向性と併せ、地域住民のためになる病院づくりに引き続き努力してほしい。

7 評価方法

各評価項目の目標とそれに対する実施状況を事務局が自己評価したものを委員が評価

8 評価結果

自己評価のとおり承認

※詳細別紙のとおり

令和8年度 笠岡市立市民病院経営強化プラン評価委員会委員名簿

任期：R7.2.13～R9.2.12

	氏 名	ふりがな	所属	備 考
委 員	秋田 悦子	あきた えつこ	笠岡市民生委員児童委員協議会	市民代表 3号委員
委 員	浅野 ツヤ子	あさの つやこ	笠岡市愛育委員協議会	市民代表 3号委員
委 員	石田 美恵子	いしだ みえこ	笠岡市社会福祉協議会	医療・福祉・保健等の関係者 1号委員
委 員	小川 弘子	おがわ ひろこ	岡山大学 地域医療人材育成講座	医療・福祉・保健等の関係者 1号委員
委 員	小橋 仙敬	こばし ひさゆき	公認会計士	識見を有する者 2号委員
委 員	谷口 正人	たにぐち まさと	笠岡医師会	医療・福祉・保健等の関係者 1号委員
委 員	長鋪 慶明	ながしき きよあき	笠岡商工会議所	識見を有する者 2号委員
委 員	櫃石 秀信	ひついし ひでのぶ	川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療福祉経営学科	医療・福祉・保健等の関係者 1号委員

事務局

	氏 名	ふりがな	所属	備 考
事務局	谷本 安	たにもと やすし	病院事業管理者(兼)院長	
事務局	山田 真二	やまだ しんじ	管理局長	
事務局	長安 早苗	ながやす さなえ	看護部長	
事務局	古宮 奈美子	こみや なみこ	病院総務課長	
事務局	三宅 誠	みやけ まこと	病院総務課参事	
事務局	守屋 慎治	もりや しんじ	病院総務課長補佐	

進捗度	A:順調に進行している。
	B:おおむね順調に進行している。
	C:一部遅れている。
	D:遅れている。

令和7年度分 経営強化プラン評価シート(概要版)

		評価	実施状況	参考 前年
1 役割・機能の最適化と連携の強化		B		B
(1) 地域医療構想等を踏まえた病院の果たすべき役割・機能		B		A
	I 離島への医療の提供	A	離島診療所(白石・真鍋・六島)に医師を派遣。訪問診療・訪問リハビリテーションの実施。真鍋島(内科)オンライン診療実施。白石島・真鍋島・六島診療所へ電子カルテを導入。	A
	II 救急医療	B	365日、24時間体制で救急患者の受入。R6年度に引き続き福山市民病院から内科医師2名の派遣あり。	B
	III 小児医療	A	小児一般診療だけでなく発達障害や療育関係も含め市内外から患者が来院。	A
	IV リハビリテーション機能	A	訪問リハビリテーションの件数増加。	A
	V 災害時医療	B	BCP(業務継続計画)に基づき備蓄食料を患者用に3日分確保。岡山県と締結した医療措置協定に基づき新興感染症発生時にも地域医療を維持できる体制を継続。	B
	VI 地域包括ケアシステムでの役割(在宅医療の充実)	C	地域包括ケア病床・療養病床は前年度に比べ稼働率は低下。訪問診療・訪問リハビリの件数は増加。看取り年間約100件。	C
	VII 健診事業	B	健康管理センター部門設置は見送り。市内医療機関からCT検査の受託。婦人科健診について、令和7年度から診療日を増やし対応。	C
(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能		B		B
① 救急及び緊急時の受入体制の整備		B	救急受入件数は減少傾向、救急の積極的な受入で改善を目指す。市内医療機関を訪問し連携を強化。	B
	② 高度急性期病院からの受入体制整備	B	高度急性期病院を積極的に訪問し連携を強化。令和6年度に締結した福山市民病院との「地域医療連携に関する覚書」に基づき内科医師2名の派遣継続。	B
	③ 在宅医療に関する市民病院の役割	B	訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーションを実施。地域に必要な医療を担う公的医療機関として他の病院で対応が難しい患者の受入。	B
	④ 市民の健康づくりの強化	C	人間ドック・特定健診・出前講座などを行い、市民の健康維持に貢献。	C
	⑤ 医療・福祉・介護の人材の確保と育成	B	地域の医療・介護・福祉関係機関との連携を推進するため、多職種による協議など顔の見える関係づくりを実施。専門職(医師・看護師・管理栄養士・理学療法士など)の実地研修受入。	B
	⑥ 島しょ部における一般医療などの提供	A	へき地診療所(白石・真鍋・六島)に医師を派遣。訪問診療・訪問リハビリテーションの実施。真鍋島(内科)オンライン診療実施。白石島・真鍋島・六島診療所へ電子カルテを導入。	A
(3) 機能分化・連携強化		B	急性期病院や診療所など複数の医療機関を訪問し、情報共有及び連携を強化。令和6年度同様の診療体制を確保。	C
(4) 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標(別紙参照)		C		C
(5) 一般会計負担の考え方		A	笠岡市と協議し、一般会計より市民病院事業会計へ基準内繰入(補助金)。	A
(6) 住民の理解のための取組		B	広報紙やホームページを活用したタイムリーで分かりやすい情報発信の実施。	B
2 医師・看護師等の確保と働き方改革		B		B
(1) 医師・看護師等の確保		B	地域卒卒業医師の継続。岡山県南西部(笠岡)総合診療医学講座寄附講座との更なる連携強化。令和6年度に締結した福山市民病院との「地域医療連携に関する覚書」に基づき内科医師2名の派遣継続。。働きやすい環境作りに努める。	B
(2) 臨床研修医の受入れ等を通じた若手医師の確保		B	岡山大学総合内科との連携による研修体制の維持。福山市民病院との連携による指導体制の整備。「島しょ部のへき地医療」などの市民病院の特色を生かした地域医療を学ぶ機会の提供。	B
(3) 医師の働き方改革への対応		C	医師の業務分散。民間事業者などを活用し医師確保。	C
3 経営形態の見直し		D	新病院建設計画の見直しにより、経営形態検討については見送り。	D
4 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組		C	関係機関との連携体制の維持。新病院建設計画の見直しに伴い、今後の病院整備の方向性に合わせて引き続き検討。	B
5 施設・設備の最適化		B		B
(1) 施設・設備の適正管理と整備費の抑制		B	新病院建設計画の見直しを踏まえ、既存施設・設備の有効活用による維持管理。	A
(2) DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進		B		B
② 今後のDX推進への取り組み		B		B
	(ア) 電子カルテシステムのバージョンアップ	B	新病院建設計画の見直しを踏まえ、慎重に検討。	B
	(イ) 出退勤記録システム導入	A	タイムカード連動した勤怠管理システムの運用。	A
	(ウ) マイナンバーへの対応	A	電子処方箋の運用。オンライン資格確認やマイナンバーカードを利用した資格確認へ対応。	A
	(エ) セキュリティ対策	B	R8.4月からのオフラインバックアップ導入に向けて環境整備。	C
	(オ) RPA(Robotic Process Automation)の活用	B	病院総務課における運用による業務効率化推進。院内各部署での実施検討。	B
	(カ) 書類の簡素化及びシステム化	D	現在は検討が進んでいない。新病院建設計画を考慮しつつ検討。	D
6 経営の効率化等		C		B
(1) 経営指標に係る数値目標(別紙参照)		C		B
(2) 経常収支比率及び修正医療収支比率に係る目標(別紙参照)		C		B
(3) 目標達成に向けた具体的な取組		C		B
ア 病床稼働率の維持		D	急性期病院や診療所などとの連携強化に努めたが、常勤医師の退職に伴う入院患者数の減少などにより、病床稼働率76.4%に低下。	A
	イ 診療所との連携強化による外来患者数の増加	C	地域医療連携室を中心に、急性期病院、診療所及び介護施設等の複数の医療機関を訪問し、情報共有や連携の強化を推進。	C
	ウ 人件費の抑制	C	人事院勧告と退職手当の影響による人件費率が増加。	C
	エ 経費の削減	B	保守一括契約の継続。薬剤の後発品使用徹底。	B
	オ 救急体制の整備	B	救急受入件数は減少傾向、救急の積極的な受入で改善を目指す。市内医療機関を訪問し連携を強化。	B
	カ 総合内科・総合診療科を中心とした診療体制の構築	B	岡山県南西部(笠岡)総合診療医学講座寄附講座との更なる連携強化。皮膚科診療体制の維持。R7年4月から泌尿器科診療再開。	B
	キ 研修医等の指導体制の強化	B	「岡山県南西部(笠岡)総合診療医学講座寄附講座」と「福山市民病院との連携」により指導体制の強化。	B
	ク 笠岡市民の医療ニーズの把握と対応	C	市内の医院・クリニックを訪問し、事業所としてのニーズを把握。意見箱の意見も大切にして改善。	C
	ケ 一般会計からの適正な繰入	A	笠岡市と協議し、一般会計より市民病院事業会計へ基準内繰入(補助金)。	A
	コ 評価委員会の設置	B	予定どおり令和7年度分の評価を実施。	B